

大阪 需給タイト感が残りなおも強含み推移

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は強含み様子見。電炉需要を満たし切るには至っておらず、堅調ムードのまま月後半へ向かう公算が大きい。14日時点のH2実勢値は5万2500~5万3000円見当で推移。

電炉筋によっては今月前半の入荷が計画を下回り、需給面にタイト化が残っている。内外市場ともに上伸力は低下しつつ、入荷難な電炉筋を中心に価格対応を迫られやすい環境には変わりなく、「市況が落ち着く

にはまだ時間を要しそう」(商社)との声が聞かれる。

一方、今月に入り、東京製鉄は2度計2,500円の値上げに動いたのに対し、地区内でも大勢が追随となりつつ、2社が上げ幅を意図的に抑えている。需要面の異なりが電炉間の価格対応にバラつきを生じさせているが、ここまで東京製鉄に同調してきた電炉筋の中には安定的な入荷を取り込めているため、目先も同社次第だが、足並みがそろってくるかは見通しにくい。

古谷商店、日本LCA学会研究発表会に参加 アクリル樹脂のケミカルリサイクルを提唱

(大阪) 金属スクラップディーラーの古谷商店(本社=大阪府東大阪市、古谷康夫社長)は、3月3日から5日に武蔵野大学で開催された「第21回日本LCA学会研究発表会」に参加し、アクリル樹脂(PMMA)のケミカルリサイクルの有用性について発表した。

LCA(Life Cycle Assessment、ライフサイクルアセスメント)は、製品やサービスについて資源調達から生産、流通、廃棄、リサイクルに至るまでの一連の過程で生じる環境負荷を定量的かつ客観的に評価する手法となる。日本LCA学会では、LCAを中心としたライフサイクル思考に関する調査・研究のほか、研究発表会や講演会などの活動を展開している。



発表する古谷取締役

今回、同社の古谷太嗣取締役が登壇し、「アクリル樹脂(PMMA)の小規模分散型ケミカルリサイクルによる温室効果

ガス削減ポテンシャル」をテーマに発表した。古谷取締役は、立命館大学、木村鋳造所、動力の協力のもと実施した、廃棄されたアクリル樹脂の再資源化にする実証実験について説明。古谷商店と動力が共同開発した廃プラスチック熱分解油炭化再生資源回収装置「パイロリナジー」を活用し再資源化を行った結果、石油由来の原料と比較してGHG(温室効果ガス)の排出量は最大約80%の削減が可能であることを示した。また、オール電化設計により再生可能エネルギーとの親和性が高い点を挙げ、再生MMAの有用性を強調した。

発表後の質疑では、会場に訪れていた大手企業の担当者から「この素材はリサイクルできるのか」「今後、使用する素材は再資源化が可能か」など、具体的な質問が相次ぎ、活発な意見交換が行われた。

発表を終え、古谷取締役は「我々の取り組みや実証実験の結果を初めて知る参加者が多く、前向きに受け止めてもらえたことを嬉しく思う。寄せられた意見を今後の事業展開に生かしていきたい」と話す。

近畿工業 2026年度入社式を開催、新たに9名を採用

(兵庫) 破碎機、選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市、和田知樹社長)は1日、2026年度入社

式を開催し、新たに大卒4名、高卒4名、中途採用1名の計9名を迎え入れた。新入社員らは今後、約2カ月間の研修を経て、各部署へ配属される予定。



入社式での集合写真

同社の研修は、「全部門の業務を体験する」目的で行われ、新入社員にとっては、会社全体の業務内容や、各部門の仕事に対する思いを学ぶ貴重な期間となる。

同社は「研修を通じて、配属後に自分の仕事の意味を理解し、周囲と連携して働く力につなげてくれれば良いと思う。また、多くの社員と直接関わることで、人とのつながりも広げてほしい」と期待を寄せる。また同社の採用担当者は「今後も誠実さを大切に、失敗を恐れず成長してほしい」とエールを送る。

サヤミツ産業 有限会社

兵庫県姫路市白浜町宇佐崎南2丁目29 TEL (079) 247-2510
FAX (079) 247-2511

ステンレス・製鋼原料・鋳造原料・アルミ・その他各種スクラップ

SAYAMITSU Inc.